

令和4年(2022)年度事業報告書(13期目)

令和4(2022)年4月1日から令和5(2023)年3月31日まで

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

0. 当会のミッションとビジョン

ミッション:若者の力を活かして地域の活性化／課題解決を加速する

ビジョン:それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動にあふれた社会

中期計画(2020~2022)基本方針:アフターコロナ社会に適応するチームの在り方(社会に果たす役割、意義、事業、ビジョン、プロセス)の見直しと再構築を行い、取り組むべき課題に対してアクションの実現と加速をする。

1 事業の成果 定量的成果

(1)提供者数

| | 13期 R4年度.2022.04-2023.03 | | 12期 R3年度.2021.04-2022.03 | | 累計(2010~) |
|----------|-----------------------------|--------|-----------------------------|-------|-----------|
| | 2022年度 | 対前年比 | 2021年度 | 対前年比 | |
| 提供者数(人) | 5,634 | 597 | 4,872 | 848 | 42,884 |
| 協力者数(人) | 389 | ▲122 | 511 | 85 | 4,286 |
| 活動時間(時間) | 15,301 | ▲7,563 | 22,864 | 9,634 | 152,136 |

ワークショップや講演等の依頼増加によりプログラム提供者数は前年比でも大きく増加している半面、協力者及び活動時間については前年比で減少傾向にある。

若手スタッフを拡充した現行の体制を活かし若者の挑戦と成長機会にじっくりと向き合うプログラム時間確保が喫緊の課題となる。

(2)情報アクセス数

| | 13期 R4年度2022.04-2023.03 | | 12期 R3年度2021.04-2022.03 | | 累計(2010～) |
|-----------------------------|----------------------------|-------|----------------------------|--------|-----------|
| | 2022年度 | 対前年比 | 2021年度 | 対前年比 | |
| HP PV | サイト更新のため未集計 | - | 18,623 | 1,097 | 238,743 |
| あしかも PV (2020.11～) | 63,397 | 7,074 | 56,323 | 45,340 | 130,703 |
| 合計PV | | | 74,946 | 32,739 | 1,110,597 |
| FBフォロワー数(人) | 2904 | 282 | 2622 | 269 | 2,904 |
| Twitter フォロワー数 (人) ※ユース | 1616 | 61 | 1555 | 135 | 1,616 |
| LINE 公式 有効登録者数 | 292 | ▲16 | 308 | ▲9 | 292 |
| Instagram フォロワー数(人) ※あしかも | 868 | 205 | 663 | 334 | 868 |
| Twitter フォロワー数 (人) ※あしかも | 857 | | | | 857 |
| メディア掲載件数(件) | 6 | ▲4 | 10 | ▲27 | 224 |

地域と繋がる若者の掘り起こしを行う「あしかもメディア」のアクセス数が増加に加え、SNSのフォロワーも順調に伸びており、若者に向けて情報発信力を高めることができた。しかしながらメディア掲載など、社会に働きかける広報は減少傾向が続いている。

スタッフが入れ替わり、プレスリリース等の細やかな対応に手が回っていない。若者を動かす広報と社会を動かす広報の両立が課題である。

(3)決算概要 ※詳細は活動計算書をご覧ください。

| | 13期 R4年度.2022.04-2023.03 | | 12期 R3年度.2021.04-2022.03 | |
|-----------|--------------------------|------------|--------------------------|------------|
| | 2022年度 | 対前年比 | 2021年度 | 対前年比 |
| 収入計 | 40,667,899 | 1,266,990 | 39,400,909 | ▲221,492 |
| うち会費・寄付 | 1,855,525 | ▲751,266 | 2,606,791 | 1,352,768 |
| 事業収入 | 8,278,030 | ▲1,478,212 | 9,756,242 | 4,483,176 |
| 行政委託事業 | 27,899,050 | 861,174 | 27,037,876 | ▲3,961,426 |
| 助成金・補助金 | 1,539,802 | 1,539,802 | 0 | ▲2,096,010 |
| 支出計 | 41,177,684 | 2,230,750 | 38,946,934 | 3,213,671 |
| うち人件費 | 21,817,265 | 233,750 | 21,583,515 | 4,588,215 |
| 当期経常増減額 | ▲509,775 | ▲963750 | 453,975 | ▲3,435,163 |
| 過年度損益修正損 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (法人税等) | 120,700 | ▲820,200 | 940,900 | 525,500 |
| 当期正味財産増減額 | ▲630,475 | ▲143,550 | ▲486,925 | ▲3,960,663 |
| 前期繰越正味財産額 | 6,299,116 | ▲486,925 | 6,786,041 | 3,473,738 |
| 次期繰越正味財産額 | 5,668,641 | ▲630,475 | 6,299,116 | ▲486,925 |

増収となったものの、会費・寄付、自主事業収入は目標予算を達成できなかったことに加え、業務委託費などの支出も増加したことにより経常利益は減少した。

各事業の収支管理また業務マネジメントができておらず、また職員の若返りもあり受託業務を実施しながらの自主事業運営の両立が難しかった。また支出においては、積極的に外部パートナーとの事業運営を展開した結果、業務委託費が高まったことに加え、支出管理ができていなかった。

次年度は、各事業毎の収支管理とスタッフ1人1人のコスト意識と資金調達意識をもって取り組んでいく。

(4)組織体制

運営会員数 34名

賛助会員・団体数 19名 企業・団体 計5組 チャレンジ会員 73名

寄付者数 96名

スタッフ数

(役員兼務2名 ※前年度3名) 岩井俊宗、古河大輔

(常勤4名 ※前年度3名) 渡邊貴也、森谷真依、中山裕貴、篠原悠太

長期インターン生11名 ※前年度11名)

神山乃々香(国際基督大学2年)、鈴木千夏(宇都宮大学2年)、吉田梨央(宇都宮大学2年)、関根佳純(東洋大学4年)、有田和貴(帝京大学2年生)、森田凜子(帝京大学3年生)、佐藤竹善(宇都宮大学4年生)、倉持姫佳(埼玉大学3年生)、宮城由希(日光湯元ビジターセンター)、佐々木美海(宇都宮大学2年生)、小野雅治(大正大学2年生)

2. 2020~2022年度基本方針(2020.6総会承認)について

(1)基本方針(2020~2022)

アフターコロナ社会に適応するチームの在り方(社会に果たす役割、意義、事業、ビジョン、プロセス)の見直しと再構築を行い、上記の取り組むべき課題に対してアクションの実現と加速をする。

(2)取り組むべき課題(2020~2022)

① 新型コロナウイルスの影響による「新たな社会像」や「次世代を担う若者・学生の価値観」の変化に即した、ユースミッションの実現に向けた事業やスキームの見直し・再構築する。特に、若者・学生が描く求める「未来の社会の姿」を丁寧に捉え、その若者の求めを中心に据えた事業スキームを変容していく。

② 地域間の人材還流の仕組みとネットワーク、実用性の整備

③ 若者の生活の安定と社会活動参画しやすい環境の整備

④ 「地域組織」の機能・組織の変革・介入の不足、「地域組織」と若者のコーディネート不足、エリアマネジメント力ある人材育成・支援

⑤ 上記を実行していくための組織体制課題として、社内人材育成強化、ガバナンス・組織基盤の再構築

(3)現在取り巻く外部環境の認識について

① 新型コロナウイルスと5Gによるパラダイムシフトへの適応

② 「地域プログラム」をつくりだす人材が各地に広がりつつあり、参加者・担い手の掘り起こしが必要。

③ 若者の経済的生活基盤の弱体化

④ 「地域疲労」の進行

(4)組織内の内部環境の認識について

① 事務局スタッフの若年化が進み、若者・学生により近い心理的距離間と価値観・感覚で業務を推進できる。

② 若者の参画や支援を行う外部組織(クライアント)や協力機関からの期待と連携については、継続して維持・発展しており、「若者×地域」支援者は広がっている。

(5)重点事業(2020~2022)と2020年度評価

| 重点事業(2020~2022) | 2022年度評価 | 2021年度評価 |
|-----------------|----------|----------|
|-----------------|----------|----------|

| | | |
|---|---|--|
| <p>①コロナ禍の影響を踏まえ、これからの若者が求める社会像や機会、価値観を丁寧に紡ぎ、広く社会に発信しながら、中期計画の策定を行う。またそれらの未来像に即した、必要な人物像の設定と育む力の要素設定し必要な新たな支援プログラム開発を行う。また声を聞くだけでなく若者同士がこれからの未来や社会を議論していく場づくりを積極的に行っていく。</p> | <p>▶(2022年度評価)コロナにより若者の体験の不足、関係性の希薄化、孤立化の影響が進む反面、自ら自己成長の機会を求めて11名の長期インターン生が合流し共に事業を推進してきた。特にあしかもメディア事業では、20代スタッフとインターン生が中心となり、彼らのニーズや願い、価値観などを踏まえた取材発信活動を実施した。</p> <p>「学生の声」をテーマに取材や若者の交流会などのプログラムを実施し、若者の声を紡ぐ努力をしたが、当会の果たすべき役割を見出す十分な数と質は集まらなかった。ヒアリングでは、総じて未来に対する希望や願いが見えなかった。彼らの願いから支援策を考える予定だったが、そもそも未来に対する希望感や安心感を育むところから役割が必要とされていると認識した。</p> <p>コロナで様々な活動が制限されてきた学年の大学生は、就職できるかという不安が強い。またYOUTH TIMEなどの会員交流機会については体制を整えらず十分な実施ができなかった。</p> <p>なお、これらの反省を踏まえて、次期中期計画(2023-2025)を策定する。</p> | <p>▶(2021年度評価)スタッフの若年化と増員により、実践型インターンシップやiDEA→NEXTの伴走支援の充実など若者との関わり・コミュニケーション量が増加した。</p> <p>また若者1人と関わる時間も増え、それぞれの価値観と変遷を理解することができた。</p> <p>あしかもメディアの読者(あしかもの仲間たち)と焚火を囲んだ交流会の実施など、若手スタッフとインターン生が中心となって企画実行する機会が生まれた。</p> <p>あしかもメディアを起点として着実に、若者に地域の声を、地域に若者の声を届けることができるようになっていく。</p> <p>中期計画最終年となる2022年度は、これらの関わり方、育むべき人材像と育むべき力の設定、未来や社会を語り合う機会の充実を図っていく。</p> |
|---|---|--|

| | | |
|--|--|--|
| <p>②社会環境に適したユース事業（「地域×若者コーディネート」に加えて「情報プラットフォーム」、「地域拠点運営とエリアマネジメント」の実行と連動）の再構築</p> | <p>▶(2022年度評価)「情報プラットフォーム」としてのあしかもメディアは、63,397アクセス数(対前年度7,074増)また外部組織から掲載依頼(プログラム募集、無料)が35件(前年度24件)と増加し、対外的な認知が広がっている。また2件の有料求人記事化もできた。</p> <p>「地域拠点運営とエリアマネジメント」については、事務所兼ワーキングスペースのaretは、コロナ禍の影響もあり、積極的な広報はできなかったが、レジデンス入居者、マンスリー利用者の利用が増えた。</p> <p>また様々な打ち合わせや交流会もaretで実施することが増え、新たな物事が始まる起点として活用ができ始めている。</p> <p>空き家の活用については、宇都宮市弥生にあるYOUTH HOUSEは、学生の入居とアイデアネクスト卒業生団体のキーデザインのプロースクールとして動き始めた。</p> <p>当会職員が携わっていないが、入居者と地域の関わり合いが生まれ始めている。</p> | <p>▶(2021年度評価)「情報プラットフォーム」としてのあしかもメディアは、年間で56,000p等アクセス、また記事の量共に、増加している。掲載者からも”採用した””県外から声をかけてもらう機会が広がった””自身に取り組んでいる意味を発見した”などの反響がある。</p> <p>以前、若者においての認知には課題があると考え、県内の高校、大学、社会人へのプロモーションの充実を図る。</p> <p>また協賛企業3社(計300,000円)に協賛いただくなど、資金も動きも始めた。取材型の記事有料化を進め、事業の安定化を図っていく。</p> <p>「地域拠点運営とエリアマネジメント」においては、ワーキングスペースaretはコロナにより積極的な広報できずにいるが、高校生などマンスリーの利用者が増えた。しかしながら、aretの利用者を地域に展開する動きはまだつられていない。一方で「宇都宮空き家会議」では、空き家を大学生の力で「駄菓子屋」にしていくなど、大家と若者などの空き家活用希望者とを結びつけていくことができた。また空き家改修に関わった若者たちとのLINEグループ(地域の空き家応援隊)では現在44名の大学生が加入している。</p> |
|--|--|--|

| | | |
|---|--|---|
| <p>③各地の「地域プログラム」への参加者のコーディネートと「地域コーディネーター」との連携検討(連携効果予測、連携の具体的方法)</p> | <p>▶(2022年度評価)あしかもメディアでの積極的なプログラム参加者募集や地域づくりインターン(県受託事業)など外部団体との連携に取り組んだものの、新たな仕組みやより一層の深化した連携には届かなかった。</p> <p>次期中期計画ではより具体的な目的と機能を設定し、地域コーディネーター連携の深化に取り組む。</p> | <p>▶(2021年度評価)</p> <p>「地域づくり担い手育成事業」において、iDEANEXTの卒業生など県内各地の地域実践団体に高校生・大学生が3日～5日活動する「地域づくりインターンシップ」を実施した。</p> <p>プログラム修了後も、実践団体と関わり続けるなど、参加者に加えて、活動継続率などプログラムを起点とした関わり合いの継続などの効果指標を設定することができた。</p> <p>下野市公民連携事業においても、地域づくり担い手事業や実践型インターンシップ(ベンチャー留学)などプログラム連携を図ることができた。</p> |
| <p>④若者の社会参加しやすい仕組み・仕掛けの検討</p> | <p>▶(2022年度評価)説明会や報告会などのオンラインを活用したプログラム運営、インターン生、アイデアネクスト挑戦者への活動支援金の提供などを実施。</p> <p>長期のインターン生など成長意欲の高い若者との関わりは広がっている。しかしながら、はじめて地域と関わることや当会のプログラムに参加することへの仕掛けはつくれず、はじめの一步の掘り起こしについては課題が残る。</p> | <p>▶(2021年度評価) インターンの説明会や報告会など、プログラムの可視化をオンラインで行うなど、若者の新しいコトへの選択のハードルとなっている”わからないことに時間を使う”対応で、移動時間を削減するプログラム展開を実施した。またあしかもメディアの成長も、わからないことは今いるところでネットで情報収集しイメージ(期待)が湧いてから行動する特性にも合致するものと考えられる。関心醸成はオンライン、関係構築や経験向上は対面というプログラムステージ毎への関わり方が見えてきた。</p> |

| | | |
|--|--|--|
| <p>⑤地域拠点を基軸にしたエリアマネジメント、コーディネートの実施</p> | <p>▶(2022年度評価)NPO×地域組織の連携による支え合いモデル事業では、aretを拠点とし、西地区の子どもたちが生活課題を持った地域住民のお手伝いに行う取り組みが始まった。</p> <p>また本事例に加えて、県内の民間事業者が地域自治を担う可能性を深める「ココラボ」コミュニティもはじまった。支え合う地域のセーフティネットの兆しではあるものの、地域経済圏にはまだまだ遠い。</p> | <p>▶(2021年度評価)</p> <p>aret(宇都宮市西原), YOUTHHOUSE(宇都宮市弥生)の拠点から、地域のまちづくり組織との関りも広がり、西地区まちづくり推進委員会では組織として理事に就任し、地域の課題や理想に向けた活動参画を行っている。特に、西地区では、iDEANEXTの吉田圭吾とともに、地域を離れた若者が戻りやすいように、地域の情報の発信を行いオンラインでのコミュニティづくりと宇都宮での交流会などを実施する「宇都宮市Uターンゲート事業」を展開し、現在も西地区を離れた若者22名が参加している。高齢化が進む西地区において若者が地域参画への期待や関わりが地域全体で進んでいる。また前年度の自治会モデル化事業での帝京大学乗川ゼミと一人暮らし高齢者のお庭の片付けの事業が評価となり、栃木県支え合い地域づくりモデル事業(県民文化課)の展開されるなど、地域に若者が参画していく取り組みが広がっている。</p> |
|--|--|--|

| | | |
|---------------------------------------|--|---|
| <p>⑥社内の若手スタッフの人材育成、ガバナンスと組織基盤の再構築</p> | <p>▶(2022年度評価)slackの導入と活用により、場所にとらわれることなく社内の情報共有が円滑化している。</p> <p>また各スタッフが会員へのヒアリングを実施し、会員ニーズや期待などを直接把握し共有した。スタッフが事業推進だけでなく当会を支えてくれる方たちの想いを託されていることの認識ができた。</p> <p>スタッフの若返りや新スタッフの合流があり、ミドルマネジャーが不在であった。代表自身が、担当する業務、また未来の布石をつくる事業に時間が関わり、組織全体のマネジメントの対応ができなかった。また理事会が開催できておらず事務局主導で進めることも多かった。</p> | <p>▶(2021年度評価)当会での実践型インターンを経て、新卒2名が合流し、各事業を責任をもって取り組んでいる他、大学生インターンの受け入れ対応できるスタッフが増え、今年の長期インターン生は、11名となった。リモートワーク、フレックシブル制など、自由な働き方を進めながら情報共有については、slackの活用やオンラインミーティング、データのクラウド管理・共有など、整備した。</p> <p>人材育成に関しては、以前OJTであることが多く、体系だった育成ができていないことは課題であるが、スタッフと個別に話を時間などを取り、業務だけでなくコミュニケーションを図っている(十分ではないが)</p> <p>会員・理事・職員が一堂に会し「経営会議」した。精算払いから中間払いにするよう働きかけたり、いくことや認定NPO法人化することなど事業の進め方や経営についての会員から貴重な意見をいただくことができた。今後、会員のあり方の再定義やよりよい若者の支援策を考えていくこと、またそのための資金を集めていくことなど、事務局主導ではない会員参画についても、より協議・合意をしていく。</p> |
|---------------------------------------|--|---|

⇒(全体総括) 新型コロナウイルスの蔓延により、「三密の回避」など対面接触を避けると同時に、デジタル技術の活用が進んだ「新しい生活様式」への変容が進んだ。同時に、関係性の構築や体験による自己成長を進めてきた当会においても、コロナ前と同様の取り組みからの脱却が求められ、新たな事業モデルづくりに挑んだ。

これまでの地域ニーズと若者の意欲を繋げるコーディネートや社会課題に対して自ら動いていく若者の行動化支援事業や社会的な仕組みの快活運営を行うソーシャルプロジェクト支援領域は、コロナ禍においても継続また新規の取り組みが増えた。

加えて、新たに若者と地域をつなぐオウンドメディア「あしかもメディア」の開設、空き家等の活用も踏まえ、若者と地域とがつながり動き始める地域拠点づくりや他地域でのコーディネーターチームの育成、会員・支援者へのヒアリング等のコミュニケーションに注力した。また長年懸念事項であったスタッフの高齢化に対し、新卒スタッフを採用するなど組織の若返りを図った。長期インターン生は、毎年平均3名程度だったが、この3年においては、毎年平均9名の長期インターン生と活動することができ、若者(学生)へのコロナの影響の把握や、組織の若返りを踏まえ若者の願いや価値観を踏まえた事業設計と運営を進めることができた。様々なステークホルダーとの関係が広がっているポジティブな状況がある一方で、社会的期待と要請が高く、質と量が求められる成果と業務の多様さにより、組織の管理的機能、全体マネジメントの脆弱さが露呈した。組織が社会に働きかける価値の創造と組織の守り(収支管理や会員管理)の体制バランス安定化が課題である。

また広報において、人を動かす(参画)の広報は注力したものの、メディア等を活用した社会的喚起や支援者拡大などの社会を動かす広報には手が回らなかった。

4. 事業の実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業

| 事業の種類 (定款) | 事業群 | 事業内容 | 実施時期 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 事業費の支出金額(千円) |
|--------------------|-------------------|--|------|------|--------|---|--------------|
| ①社会事業 を行う人材育成事業 | 実践型インターンシップ 事業 | ・あしかもライターインターンシップ ・「最高の一杯で一日のスタートを幸せに」 世界の名店カフェの味を、たくさんの人に届ける社内ベンチャー右腕プロジェクト ※インターン生都合により中止 | 通年 | 栃木県内 | 5名 | プログラム提供数381回(件) 大学生、20代社会人、地元中小企業、自治会等 | 944 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|---|--------|-----------------------------|----|---|--------|
| | | ・コワーキングスペース周辺地域の魅力発信!周遊マップ“tabet”作成&交流事業創出プロジェクト | | | | 延440名/1,560時間 | |
| 起業・創業 ネットワーク 事業 | | 若者の社会をよくするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」:社会をよくするアイデアを持った伴走支援を行い、アイデアの社会実装と継続実施を育む。課題解決型思考と計画・プレゼンテーションの研修、個別メンタリング、活動支援金の提供、ファイナルプレゼンテーションを実施。 | 4月~1月 | 事務所 帝京大 学宇都 宮キャンパス | 6名 | 全体プログラム提供数11回 社会を良くするアイデアを持った39歳以下の若者 延238名/1,180.5時間 | 2354 |
| 地域づくり担 い手育成事業 | | 地域づくり担い手育成プログラム: 地域づくりに関心を持つ若者等に県内の地域活動の実践者や団体の活動に集中的に関わってもらい、経験を積むことでマッチングし、イベント終了後の継続的な関わりにつなげるもの。 | 8月~3月 | 栃木県 内各地 | 3名 | プログラム提供回数 15回 地域づくりに関心がある若者、 県内の地域づくり活動団体 延べ313名/958時間 | 15,664 |
| | | 地域づくり担い手支援プログラム:地域づくりの実践に携わる者に対して、団体の立ち上げから安定的な運営に役立つ手法や先事例の紹介、実践者同士のネットワークを構築するため、グループワーク等も取り入れたプログラムを提供し、継続的な活動につながる支援を行う。 | 12月~2月 | 栃木県 内各地 | 3名 | プログラム提供数10回 地域づくり活動の実践者 延べ119名/285時間 | |
| 若者人材育成 | | 宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」:社会を多角的に捉え、自身の目指すもの、地域リーダーとしての素養を育む研修を実施 | 6月~11月 | オンライン形式 宇都宮大 学 | 3名 | プログラム提供数20回 県内社会人 延べ253人/1597時間 | |

| | | | | | | | |
|------------------|-------------|---|--------|-------|----|---|--------|
| | | <p>宇大未来塾「次世代経営マネジメントプログラム」:</p> <p>不透明で不確実な社会の中、新たな価値の創造に必要な経営的視点、戦略的思考、マネジメント能力とネットワークを獲得し、変化の加速度を高めていく、宇都宮大学が提供する次世代の経営人材・社内リーダー育成プログラム</p> | 12月~3月 | 宇都宮大学 | 3名 | <p>プログラム提供数 19回</p> <p>県内経営者・経営幹部者 延べ136名/395時間</p> | |
| | | <p>下野市公民連携推進事業:</p> <p>下野市全体をキャンパスに、『シモツケ大学』や公共空間の利活用社会実験「にぎわい広場実験室(にぎらボ)」を通してまちと人をつなげる場づくりを実施。</p> | 7月~3月 | 下野市 | 1名 | | |
| ②ソーシャルプロジェクト支援事業 | ソーシャルプロジェクト | <p>グリーンツーリズム:</p> <p>グリーンツーリズムネットワーク機能化:会の意義の見直し、会員のニーズの把握、会員の整理、研修・交流機会の実施、モニターツアーの実施、会員ホームページ管理運営</p> | 8月~3月 | 栃木県内 | 2名 | <p>プログラム提供回数14回</p> <p>延べ161名/536時間</p> | 10,852 |
| | | <p>とちぎデジタルハブ:</p> <p>県内の地域課題を住民がホームページに課題投稿し、その課題をデジタルの力を使い個人や企業が協働して解決に導いていく事業</p> | 9月~3月 | 栃木県内 | 2名 | <p>プログラム提供回数 6回</p> <p>県内の課題を解決したい人 延べ人数124名/248時間</p> | |
| | | <p>ユースハウス:</p> <p>空き家をNPO法人キーデザインおよび当会インターン生へ貸し出している</p> | 通年 | 栃木県内 | 2名 | <p>入居者1名</p> <p>入居団体1団体</p> | |

| | | | | | | | |
|---------------------------|--------------------------------|--|----|-----------|----|--|-------|
| | | 西地区支え合い地域づくりモデル事業: 宇都宮市西地区において、子ども・若者が 地域の困りごと解決の担い手となるコミュ ニティ開発のコーディネート | 通年 | 宇都宮 市内 | 2名 | 実施2回 延べ参加者40名 | |
| | | うつのみや未来創造プロジェクト“みやプ ロ”: 宇都宮市における行政と民間の若者によ る共創事業プラットフォーム構築に向けた プロジェクト運営の助言及び実施サポート | 通年 | 宇都宮 市内 | 2名 | プログラム参加 者(行政職員、市 内在住・通勤者、 大学生)42名 | |
| ⑥社会事業 に関する相 談/アドバイス | 社会事業に 関する相談/ アドバイス事 業 | 講演 (野崎中学校、豊田中学校、宇都宮北高 校、栃木県デジタル戦略課、那須塩原市 市民活動支援センター、宇都宮文星短期 大学、とちぎ協働デザインリーグ、ETIC、 茨城県行方市、群馬県館林市等) | 通年 | 栃木県 内 | 2名 | プログラム提供 数16回 県内社会人、 大学生 延べ 666人 /1,298時間 | |
| ⑧情報発信 事業 | 情報発信事 業 | 情報発信 <WEB> A: HP B: あしかも C: メルマガ <SNS> D: Facebook E: twitter(ユース) F: twitter(あしかも) G: LINE公式 H: Instagram(あしかも) | 通年 | 当会事 務所 | 6名 | A: B: 63,397pv(7,074 増) C: D: 2904 E: 1616 F: 857 G: 292 H: 868 | 9,941 |
| | | 取材・新聞掲載等 | | | | | |
| | | 外部委員等 ・宇都宮空き家会議 副会長(岩井) | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none">・宇都宮市行政経営懇談会 委員(岩井)・宇都宮市総合計画市民懇談会 委員(岩井)・栃木県デジタル戦略策定外部有識者会議委員(岩井)・とちぎ協働アドバイザー(岩井)・宇都宮市民活動助成金審査 (皆川)・宇都宮市ベンチャーズ 起業支援相談(岩井) | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|